

公益社団法人 日本精神神経学会  
参与・前理事長 神庭 重信  
理事長 久住 一郎

## [分科会としての活動]

### I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる学会の独自の活動

- 1) 日本専門医機構の基本領域学会の一つとして、新たな精神科専門医制度が支障なく運営されるように学会をあげて取り組んできた。2021年6月時点で、会員数約19000人、専門医数約12000人、指導医数約8000人、プログラム数222にのぼる。
- 2) WHOが中心となり、ICD-11に含まれる精神疾患の診断ガイドラインの信頼性と有用性のフィールドスタディが全世界13カ国で行われた。このスタートアップ会議を当学会が主催した。日本からは国内20施設が参加した。また、本学会精神科用語検討委員会と精神科関連12学会・委員会からなる精神科病名検討連絡会は、ICD-11の精神科関連の病名・用語の日本語訳を新たに検討する会議を2016年から開催し検討を重ねてきた。大きな変更は、病名のdisorderの訳に、disability「障害、障碍、障がい」と混同されやすい「障害」ではなく、「症」をあてたことである。
- 3) 英文機関誌Psychiatry and Clinical Neurosciencesの直近のインパクトファクター(2020年)は5.188となり、年間のダウンロード数は約125万回にのぼっている。本学会では研究活動の裾野を広げるために、オープンアクセスの英文機関誌が必要であると判断し、姉妹誌Psychiatry and Clinical Neurosciences Reportsを発行することにした。
- 4) 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下におけるメンタルヘルス対策指針」をはじめ各種の資料を作成し公開した。この対策指針の概要は、日本医師会「COVID-19有識者会議」のホームページに掲載されている。また、英文機関誌Psychiatry and Clinical Neurosciencesでは、Virtual Issue "Mental health issues associated with COVID-19 outbreak"を発刊し、これまでに国内外の65論文を採択、オープンアクセスとして情報を公開した。
- 5) JSPN Fellowship Awardを12名の海外の若手精神科医に授与し、本学会年次総会に招待し、発表の機会を与えている。一方で、国内の若手精神科医で国際学会にて優れた口頭発表を行った者に対しては「国際学会発表賞」を授与している。これらの活動により、国内外の若手精神科医の育成をめざしている。
- 6) American Psychiatric Association および Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists, Asian Federation of Psychiatric Associations, World Psychiatric Associationとは、シンポジウムを共同開催したり、執行役員や演者を派遣し合うなどして、交流を深めており、本学会の国際化を図っている。
- 7) 本学会は、精神医学・医療の各種テキストを出版してきている。直近の5年間では、「統合失調症に合併する肥満・糖尿病の予防ガイド」(2020)、「日本精神神経学会専門医認定試験問題 解答と解説 第2集〔第4回～第6回〕」(2020)、「研修医のための精神科ハンドブック」(2020)、「ECTグッドプラクティス」(2020)、「多職種でひらく次世代のこころのケア」(2020)、「日本精神神経学会認知症診療医テキスト」

(2019)、「エキスパートに学ぶ精神科初診面接」(2018)を発行した。

8) テキストの出版事業と共に、専門医の育成、精神科医の生涯教育、さらには医学生、研修医の教育に役立つeラーニング教材の充実にも力を入れている。

9) 精神医学研究のオピニオンリーダーとして、関連12学会と共に提言、「精神疾患の克服と障害支援にむけた研究推進の提言」(2018)ならびに「精神疾患の克服と障害支援にむけた研究推進の提言－当事者・家族・一般向け要約版－」(2020)を发出している。

10) 学会運営上は、いわゆる法人法に基づく内閣府公益認定等委員会の指導内容を厳正に遵守することに留意している。

## II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる他の分科会との連携による活動

○ 2020年6月、日本糖尿病学会および日本肥満学会と協働で「統合失調症に合併する肥満・糖尿病の予防ガイド」を作成、また2021年6月、日本産科婦人科学会と協働で「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性がある妊産婦の診療ガイド」を作成し、適切な運用を図っている。

○ サブスペシャリティ領域の関連学会と深い連携を図りながら、より良いサブスペシャリティ専門医制度の構築に協力している。

○ 日本医療安全調査機構の「医療事故調査・支援センター」の支援団体として、死因の調査分析事業に協力している。

○ 国立精神・神経疾患医療研究センターが進めている精神疾患レジストリーの構築に協力している。

### [本学会からの期待・要望]

厚生労働省は「患者数が多く、国を挙げて緊急に対策を講じる必要がある病気」として、「がん」「脳卒中」「急性心筋梗塞」「糖尿病」を4大疾病と位置づけてきましたが、患者数の増加を受けて、2011年7月に、この4大疾病に「精神疾患」をあらたに付け加えて「5大疾病」と位置づけ、精神疾患に対して重点対策を行う方針を打ち出しました。実際に、精神疾患により医療機関にかかっている患者数は、2017年には400万人を超えています。

しかしながら精神科医療は、歴史的に軽視されてきた医療分野の一つであるとも言えます。

日本精神神経学会は、1902年に発会し、精神医学と神経学の研究を進め、会員相互間の研修を深めることをもってわが国における精神医学、神経学、精神医療の発展に寄与することを目的としてきました。

日本医学会においても、国民のメンタルヘルスの向上、そして精神疾患の研究・医療のレベル向上をめざした活動をさらに活発に進めて頂きたいと思っております。本学会も独自の活動をさらに盛んにするとともに、日本医学会に大きく貢献したいと思っております。